



かみ 紙コップのオリオン

いちかわ さ く こ こうだんしゃ
市川朔久子作 講談社

ある日突然、意味不明な手紙を残して、母さんがいなくなった。中一の論里と妹の有里、そして論里とは血のつながらない父さんを残して。同じころ、学校では創立記念行事の準備が始まっていた。成り行きで、実行委員をやるはめになった論里。自ら提案した「キャンドルナイト」イベント成功に向けて活動するうちに、大切なものに気づいていく。家族、友人、特別な存在になり始めた女の子。人と人とのつながりのように、キャンドルの小さな灯りが、校庭一面に冬の星座を描き出す。

